

ロータリーの未来はあなたの手の中に

国際ロータリー第2530地区東北第一分區
福島南
ロータリークラブ


事務局：福島市南支店南支店 3F-36 4F-2242 2F-217 電話：0246-81187 fax:0246-81188 0246-81189 fax:0246-81190
 事務局：福島市南支店 4-303 9900-81101 fax:0246-81102 fax:0246-81103
 1877777 http://www.rotary.or.jp/rotary/index.html

会長：林 克重 幹事：高橋和之
 副会長：小池 利也 副幹事：藤原 一郎 委員：奥田 和典 金子 雅樹 阿部 真行

2009年-2010年R1年

第27回例会 平成22年1月27日(水) サンパレス福島

■メークアップ/18名 ■修正率/86.57% ■会員/67名 ■出席/40名 ■出席率/59.70%

本日のプログラム	5 幹事報告	
1 開会点鐘	6 大橋 GE 帰国報告	
2 ロータリーソング(奉仕の理想)	7 委嘱状伝達	
3 4つのテスト	8 ポール・ハリス追悼例会	
4 会長挨拶	9 閉会点鐘	
今月・来月のプログラム	2月17日(水) 会員元氣スピーチ	
2月6日(土) 東北第一分區 IM (福島ビューホテル)	2月17日(水) 福島成蹊高校 IAC 例会(成蹊高校)	
2月10日(水) 渡邊英世東北第一分區ガバナー補佐訪問	2月24日(水) 地区協議会準備打合せ	
	2月24日(水) 福島成蹊高校 IAC3 年生慰労表彰	

◆**会長挨拶**◆ **林 克重**会長



皆様こんにちは
 本日は、ポールハリス追悼例会です。阿久津バストガバナーのスピーチ楽しみにしております。例年ですと、夜間例会となっておりましたが、今年は、ガバナー輩出準備年度のため、日中とさせていただきます。現在ガバナーエレクト事務所では、30日31日の会議準備で幹事と事務長ダブル穴戸を筆頭に事務局一丸となって準備中です。

さて、先日東邦銀行南支店ユーザー会の新年講演会で国分秀夫さんの講演を聴かせていただきました。国分さんは、当クラブ22代会長の国分和夫さんの弟さんで古川商業(現古川学園)女子バレー部を全国大会優勝通算10回達成した有名な監督であります。演題は、「夢を見て 夢を追いかけ 夢を食う」ととても感銘を受けた講演会でした。

今日の経済政治共に荒廃している社会を乗り越える勇気をいただきましたので紹介させていただきます。周りを変えるのではなく 自分を変えることが、とても大切だとおっしゃっていました。そのためには、
 ① 人の話を聴くこと 日本一、世界一の話をお聴く
 山田監督 松平監督 卓球の近藤監督
 ② 読書 いい本を読む 本は、知恵の宝庫で人間力を育てるために
 ③ 新聞ニュースを読む 世の中の変化に敏感になるために

成功の三つの力につながるのです
 ① 人間力
 ② 変化対応力
 ③ 気づきの力
 明るく前向きに生きている人が結果を出す
 小さなことを積み重ね実行する
 しかし、努力だけでは夢を達成できない 努力は当たり前そこに知恵を絞り工夫を凝らすことそうすれば、周囲の気持ちを動かせば夢を実現できるとおっしゃっていました。
 国分さんの生きざまを学ばせていただいた事、これから出来ることから実行していこうと考えています。

以上で会長挨拶といたします。

◆**ポール・ハリス追悼例会ご講話**◆
 ー阿久津 肇バストガバナーー



ポール・ハリスの生立ちとロータリー
 ロータリーは1月をロータリー理解推進月間、そしてポール・ハリスの命日1月27日を含む1週間を追悼記念週間としています。

ポール・パーシー・ハリスは、1868年(明治)4月19日にウィスコンシン州ラシーンで生まれました。奇しくも同じ年に、日本のロータリーの生みの親である米山梅吉が2月4日、ロータリーの哲人と言われたアーサー・J・シェルドンが5月1日に生まれています。そして米山梅吉は1946年(昭和21)4月28日に亡くなり、ポールはそれより9ヶ月後の1947年1月27日に亡くなっています。共に同じ年代を生きたこととなります。父ジョージは社会的な性格でしたが、地道に仕事を続けることが出来ず、次々と職業を変え、ようやくラシーンでドラッグストアを経営したが、これも長続きせず倒産してしまいます。そのため5歳のセシルと3歳のポールを連れて生まれ故郷のパーマント州ウオーリングフォードに移り住みます。ポールは祖父ハーワード、祖母マメラに育てられ、ニューイングランド地方の勤勉、質素、寛容の気質を教えられ、さらに祖母の愛情と親がポールの人生に強い影響を与えました。ニュージャージー州の名門プリンストン大学に入学、大学生活を満喫し、成績も申し分なかったのですが、祖父の死亡で中退し、大理石会社で肉体的労働に従事します。しかし、ここで祖母マメラがポールの人生を変えるのです。ポールは次のように語っています。「孫は法律を学ぶために西へ行くべきだと言うのが祖母の決定でした。」この決心がなかったら或いは大理石会社で成功していたかもしれません。祖母の命守るままに1889年アイオワ州立デモイン校法学部に入学します。デモインに行くにはシカゴで列車を乗り換える必要があり、1週間滞在します。パーマント州では見られない文明そして悪徳と犯罪の横行する町を目の当たりにし、それらへの関心が後日シカゴに住み着く契機になったと言われています。1891年には法学部を卒業、弁護士資格も取得します。1891年～1896年の5年間は、アメリカだけでなく、イングランド、スコットランドからヨーロッパ各地で新聞記者、大学講師、俳優、カウボーイ、事務職員、水夫、工具、ホテルマンなど実に多彩な仕事を体験しますが、これが「5年間の愚行 five years of folly」と言われています。私は幼少時を過ごしたニューイングランドの気質とこの5年間の様々な経験がその後のポールの人生に確かな影響を及ぼしたと考えています。1896年2月27日(28歳)にはシカゴで弁護士を開業します。5年経った頃にはポールの事務所は客足が絶え間なく、仕事も順調になっていました。1905年2月23日(木)の午後、ポールと顧客の石炭商人シルベスター・シールは、夕食を共にし、親睦とビジネスを推進するクラブの構想を話し合いました。寒風が吹きつける凍てつく中をポールとシルベスターは、ガスターバスの事務所に出かけました(現在エンバクストンのロータリー本部の建物の中に保存されている)。そこでガスターバスは友人で仕立屋のハイラム・ショールと共にポールたちを待っていたのです。4人もシカゴ生まれでなく、地方から出て来た者だったので、欲得ずく商売態度、私生活や仕事で信頼できる真の友人のいない空しさを感じたままに話し合いました。そして職業を通じて知り合った関係を、個人的な友情に発展させたいということ深く認識し合ったのです。2週間後の3月9日に第2回の会合をポールの事務所で開き、この時印刷業のハリー・ラグルスと不動産業のウィリアム・ジェンセンの2名が加わりました。ハリー・ラグルスは、その後55年間シカゴクラブに在籍し、ポールが亡くなった時に存命していた唯一の創立会員でした。そして3月23日、第3回の会合は15名の参加のもとに、シルベスターの貯炭場の事務所で開催され、幹事によりシルベスター・シールを初代会長、ハリー・ラグルスを幹事に任命、ここにシカゴ・ロータリークラブが誕生します。

1906年1月に制定された最初の綱領は、会員の親睦と相互扶助を目的としており、Back Scratching Clubと言われたように仲間内を助け合う利己的な性格でした。しかし、1906年にドナルド・カーター事件が起きます。カーターは入会を薦められ、ロータリーの説明を受けましたが、即座に入会を断りました。「この活動は、クラブ内の利益支援に過ぎなく、地域社会に対する意義が欠けている。このような活動だけ続けているクラブには将来性がない、また意義も認められない」と言ったのです。ポールは1907年に三代目の会長に就任しますが、この意見を勘案し、奉仕の概念を導入します。そして地域社会に対する最初の奉仕活動としてシカゴに公衆便所を設置します。こうした一連の動きに対してクラブ内には、「親睦派」(ハリー・ラグルス)と数多くいました。

1907年から1910年までの3年間は、シカゴクラブは「奉仕派」と「親睦派」の争いに終始し、クラブ分裂の危機がありました。こうした状況にポールはやる気をなくし、1908年に2期目のクラブ会長を辞任してしまいます。そんな中1908年にその後のロータリーの発展に欠かすことの出来ない人物がクラブに入会します。チェスレー・ベリーとアーサー・シェルドンの二人です。このチェスレー・ベリーなどの尽力で1910年に「全米ロータリークラブ連合会」を設立し、奉仕や拡大についてはこの組織で検討することで一応解消しました。ポールはこの連合会の初代会長に就任しますが、1912年に辞任し、終身名誉会長となります。「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る」というポールの心情を吐露した言葉を思い出されます。1935年(昭和10)2月18日からマニラで開催された第5回太平洋ロータリー会議に出席する途中、2月6日から4日間の日程で日本を訪問する予定でしたが、嵐で3日遅れの2月9日に横浜港に到着し、翌10日の夕刻にはマニラに向かうという強行日程になってしまいました。そこで東京、京都で多くのロータリアンと交流しましたが、後日「米山とはこの時初めて会った。昼食時の紅葉館では、直々私の世話をやき、箸の使い方を教えてくれた。この微笑みの絶やさない、端正な容貌の日本人紳士とこれが初めての出会いとは思えなかった」と記しています。その後ポールは名誉会長としてクラブ訪問、国際会合など任務に復帰しましたが、1929年に心臓病のため再び中断し、1931年まで病氣養生を続けます。そして1947年1月27日にカムリフ・バンクの自宅で亡くなります。78歳でした。1月30日の夕刻厳寒の中、シカゴRCの歴代会長に棺を担がれ、マウント・ホープ共同墓地に葬られました。



◆**幹事報告**◆

楽しい例会の一案として、一回り小さなテーブルと致しました。会員同志の会話をお楽しみください。

◆**クラブフォーラム内容紹介**◆ 財団委員会

- ①今年度の目標が一人100ドルで1月13日現在累計が523,000となっているの引き続きこのペースでご協力をお願いしたい。
- ②アジアの子供達を通じて日本の子供達との交流のお手伝い。どのような活動を通じて双方の教育向上に繋がるか?



大橋 GE 帰国報告



伊藤弘子会員 委嘱状伝達

◆**スマイリングボックス**◆

- ・大橋エレクトお帰りのない、これから本番です。どうぞ頑張ってください。阿久津 肇様
- ・大橋ガバナーエレクト、国際協議会研修お疲れさまでした。 穴戸清和会員 富田健三郎会員
- ・阿久津先生のポール・ハリス追悼講和に感謝して 林克重会員 高橋和之会員

スマイル 38,000円 累計 1,190,000円
 財団・米山 33,000円 累計 980,571円

◆**座右の銘**◆ **菅野 和宏 会員**
 「石の上にも3年」

一編集後記一
 寅年、千里行って千里戻れるかなア(金子)